

## 有珠山の火山活動解説資料（令和2年2月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～④、図2～6）

5日に実施した上空からの観測（第一管区海上保安本部の協力による）では、山頂火口原周辺の噴気等の状況に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

#### ・ 地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図7）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。地震は山頂火口原直下及び昭和山直下で発生しました。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・ 地殻変動の状況（図8）

火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

---

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。  
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

今回の火山活動解説資料（令和2年3月分）は令和2年4月8日に発表する予定です。

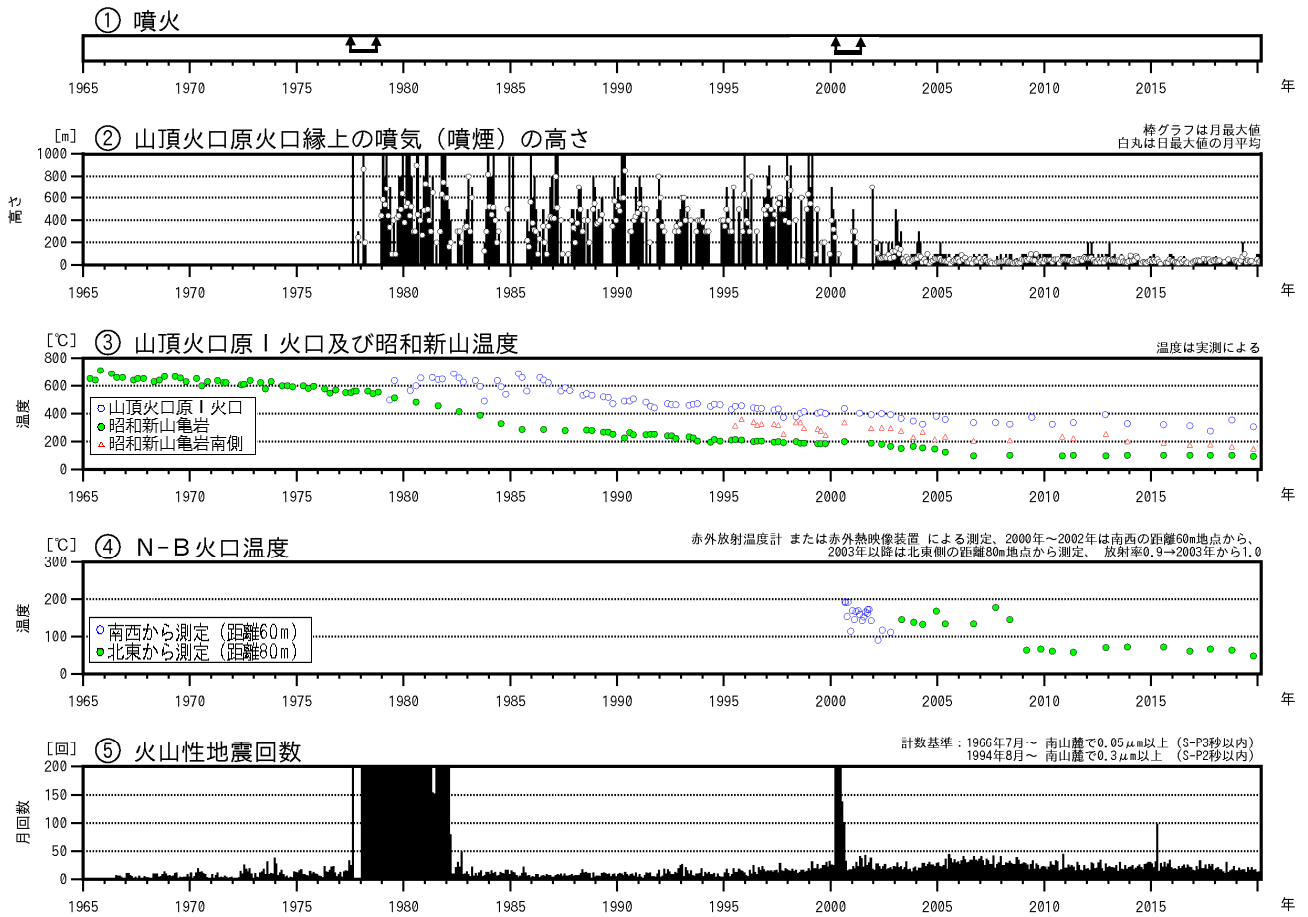


図1 有珠山 火山活動経過図(1965年1月～2020年2月)  
↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

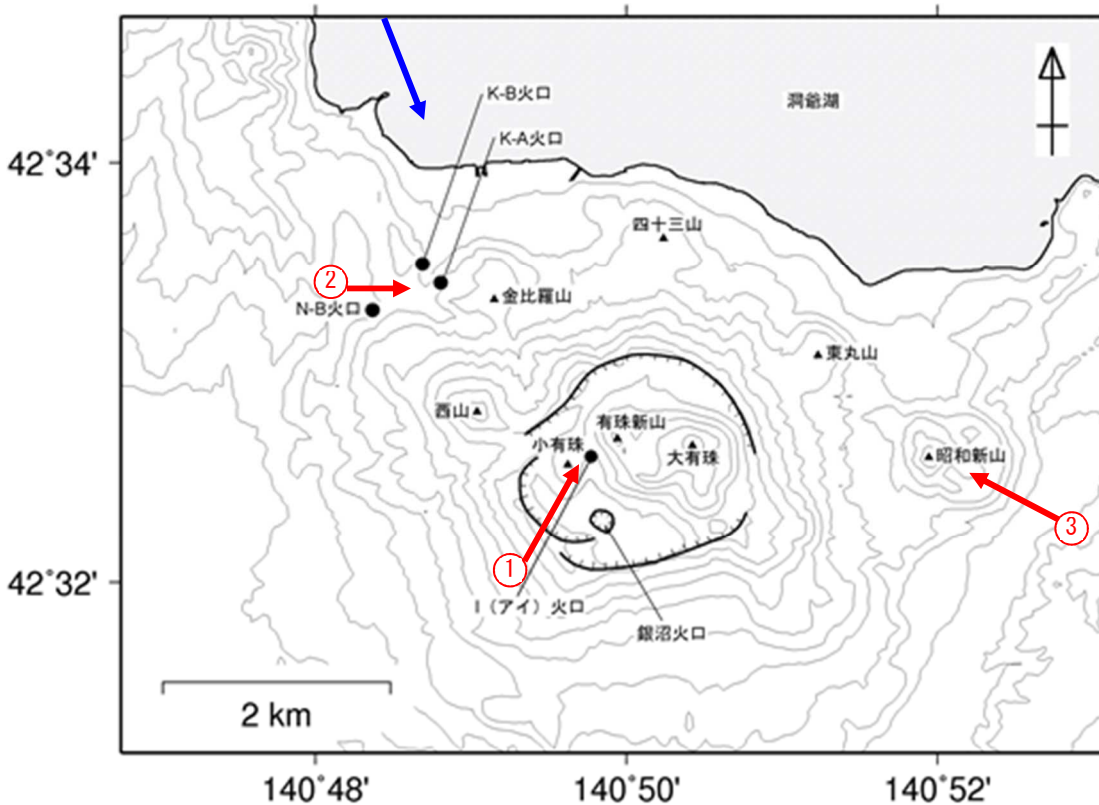


図2 有珠山 写真及び監視カメラの撮影方向  
赤矢印は上空からの撮影方向、青矢印は月浦監視カメラの撮影方向



図3 有珠山 山頂火口原周辺の状況

南西側上空（図2-①）から撮影

・ I火口周辺の噴気の状況に異常は認められませんでした。



図4 有珠山 金比羅山火口群・西山火口群の状況

西側上空（図2-②）から撮影

・ K-A火口、K-B火口及びN-B火口等において異常は認められませんでした。

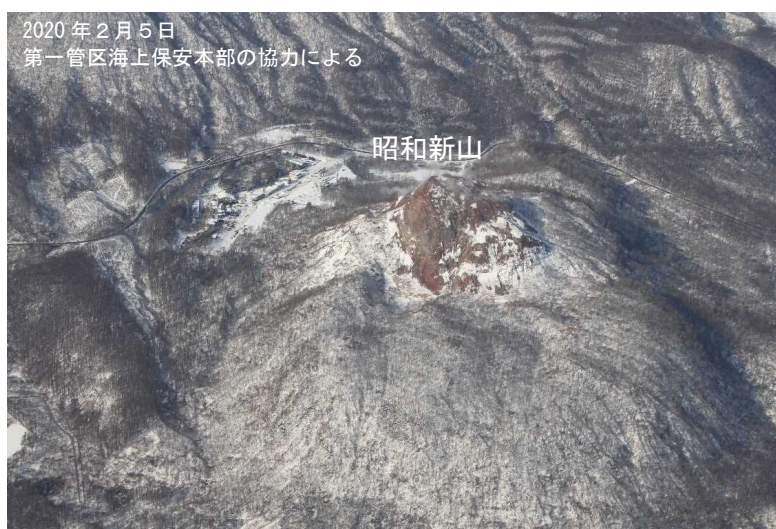


図5 有珠山 昭和新山の状況

南東側上空（図2-③）から撮影

・ 昭和新山周辺の噴気の状況に異常は認められませんでした。





図6 有珠山 北西側から見た山体の状況（2月28日、月浦監視カメラによる）

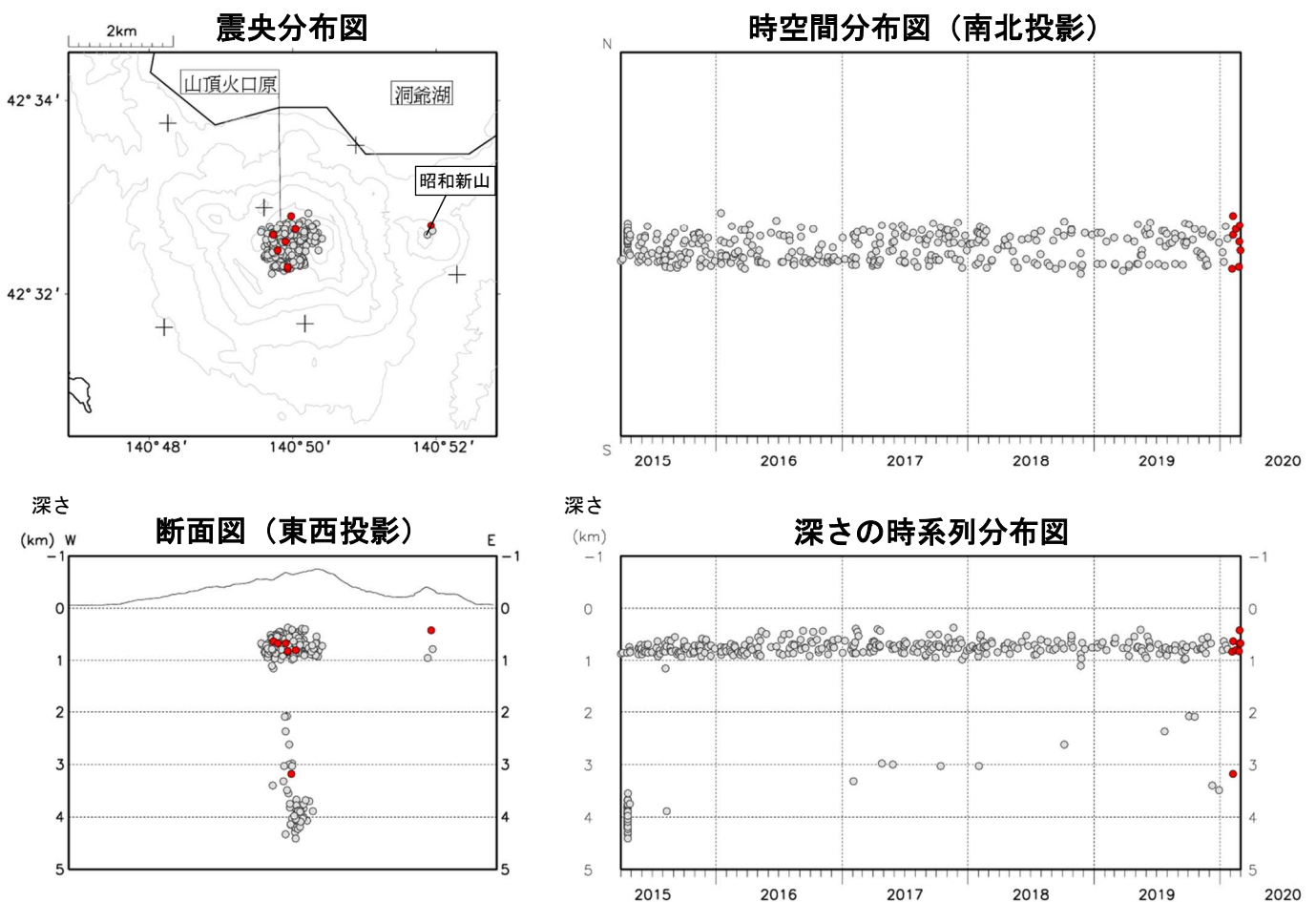


図7 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年4月～2020年2月）

●印：2015年4月～2020年1月の震源    ●印：2020年2月の震源  
 +印：地震観測点

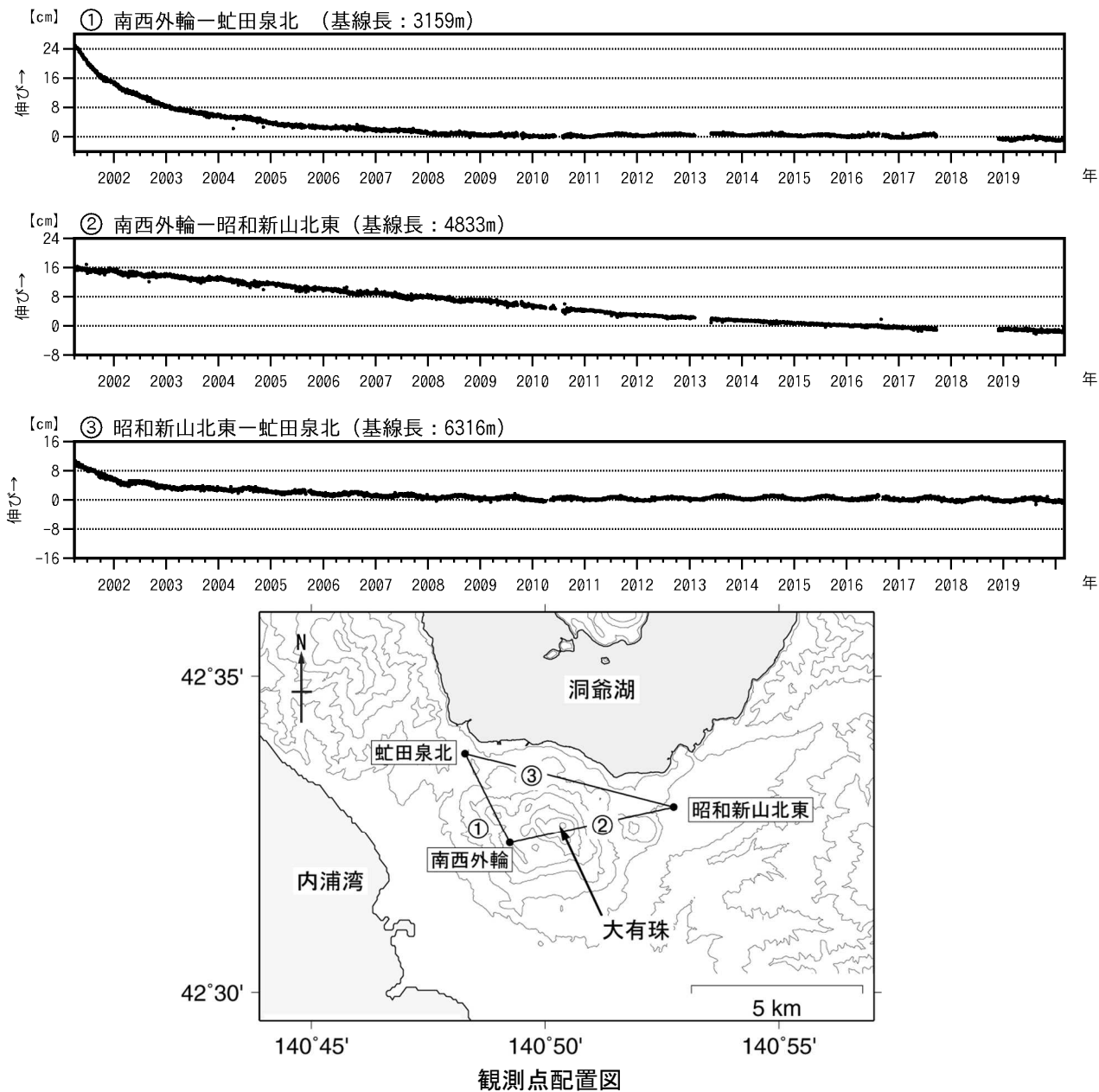


図8 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2020年2月）及び観測点配置図  
 GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。  
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。  
 2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。  
 ・②の基線長変化は、1977年から1978年の噴火以降、1982年3月まで続いた山体隆起が沈降に転じ、現在も続いていることを示しています。

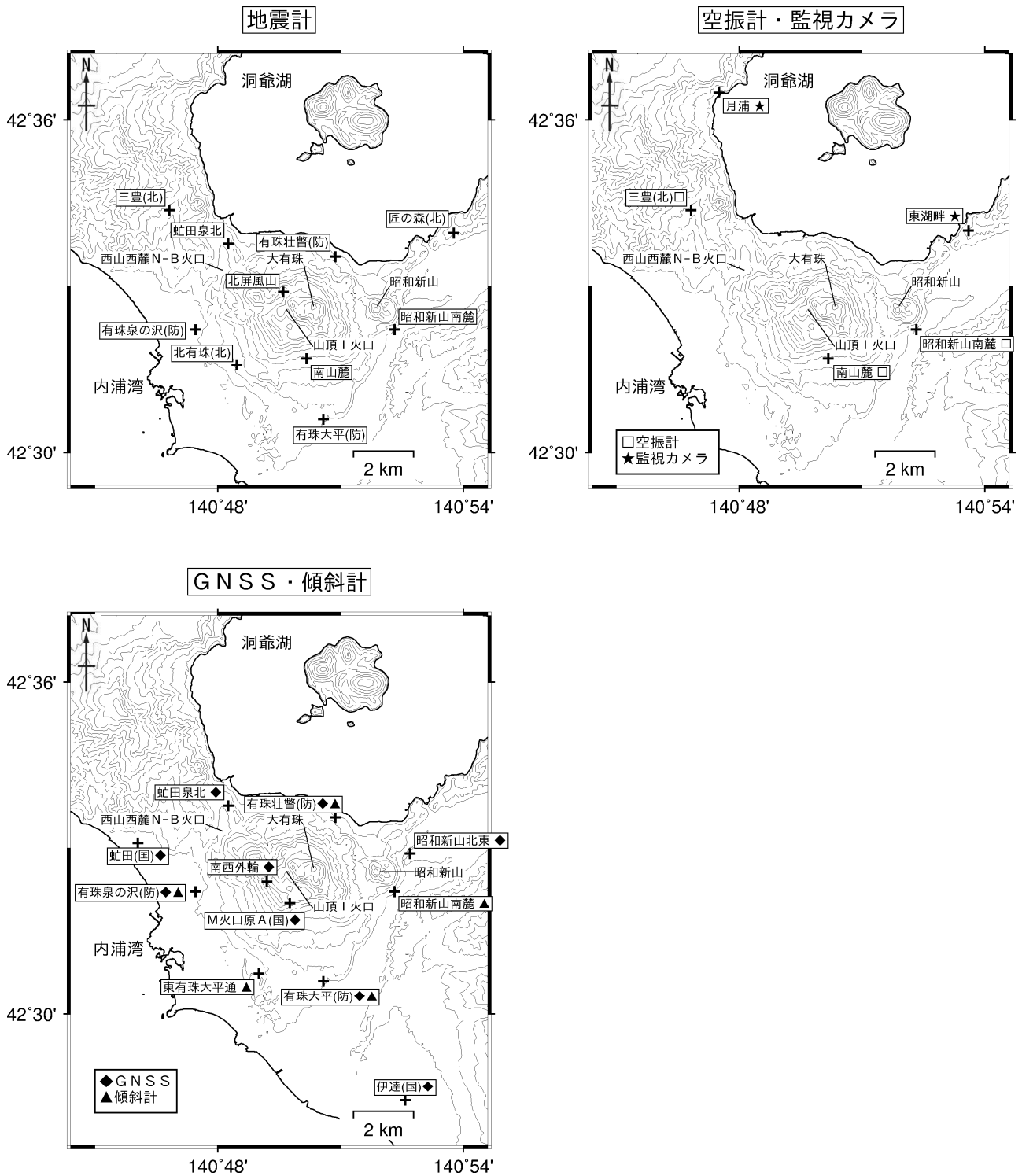


図9 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所